



### 校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせて、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

# 厚高同窓会報

<第47号> 2013年(平成25年) 5月1日(水) 発行  
<http://www.atsukou-dousou.org/>

旧制中学卒業生 3,915名  
新制高校卒業生 25,393名  
合 計 29,308名

発行  
神奈川県立厚木高等学校同窓会  
編集  
厚木高等学校同窓会広報委員会  
TEL 046 (221) 4078  
FAX 046 (222) 8243



▲ 祝賀会の大トリは応援団OBのリーディングによる校歌



▲ 記念事業の1つ、同窓会より学校に寄贈された大応援団旗



▲ 記念コンサートには、現役生も参加



▲ 先輩も後輩も共に肩組み合って校歌でフィナーレ



同窓会会長 石川 範義 (高10回)

## 新たな10年へ——絆

平成24年度第65回厚木高校卒業式が3月1日に挙行されました。厳かに肅々とそして凛としたとても素晴らしい記憶に残る卒業証書授与式でありました。会長としての出席は2回目になりますが私の役目は同窓会を代表して祝辞を申し上げますとともに、同窓会からの「茅賞」を贈ることでもあります。名譽ある「茅賞」は、第4代同窓会長でありました茅誠司氏(中11回、元東京大学総長)が文化勲章を受賞したことを記念して昭和40年度に創設されました。選考・人物とともに優れた生徒1名に与えられるものであり、厳しい選考で過去には該当者なしの年もあったようです。第1回の受賞者は中村郁氏(高18回、東京大学理学部卒、北海道大学教授)であります。ちなみに昭和39年(高17回)以前の卒業生には「岡崎賞」の方がなじみがあるかもしれません。この「岡崎賞」も第3代同窓会会長の岡崎勝男氏(中9回、元外務大臣、初代国連大使)の名を冠したものです。

さて、昨年度は創立110周年ということで本部役員・理事を中心に各支部・各クラブOB会等にもご協力をいただき、実行委員会体制で1年間取り組みさせて頂きました。おかげさまで7月7日の式典総会をはじめとして、3月2日のさくら戸陵会主管のもと開催されたオペラ・森口コンサート(杜のホールはしもと)まで全ての行事が大盛況のうち無事幕が引けましたこと、あらためて同窓会諸兄のご支援ご尽力に感謝申し上げます。

100周年以後の10年で同窓会組織は地元厚木に強固な厚木連合戸陵会が創立されたこともあり飛躍的に強化されて参りました。さらに新潟戸陵会、関西戸陵会が誕生して25支部となりクラブOB会同期会も活性化してきています。そして今、横浜会が発展的解消され横浜戸陵会にならんと、また仙台を中心に東北戸陵会の設立の動きも見えてまいりました。3年後には卒業生がのべ3万人を数えることとなります。新たな10年へ共に歩を進めましょう。

『相模川の西側の川原に立って明日を迎えるんだ。故郷(ふるさと)とは風景のことだけではなく絆のことだと僕は知る。』  
これは劇作家横内謙介氏(高32回)の作品「ホテルカプリフォルニア——厚木高校物語」のフィナーレ場面の台詞です。

年代を超えそれぞれが待てる絆は永遠に不滅です。さらにこの絆は厚木高校同窓生という絆でつながっています。「たよりにする」「てがかりになる」絆という言葉にはこのような意味もあります。私は「同窓の絆」というものをずっと大事にしていきたいと思っています。新たな10年へ——。

# 世紀を超えて

## 110周年記念事業報告



過去最多の参加者数となった地引綱大会

明治35年(1902年)4月13日、母校・県立厚木高校は、愛甲郡の人々の熱き思いに支えられ、戸室ヶ丘に神奈川県立第三中学校として開校しました。坂の上の雲に代表される「明治」という時代に神奈川県立第三中学校創立略史の起稿者である霧島久圓氏は、第三中学校の果たすべき使命を「未来永遠に本校より濟々たる多士を輩出し、直接間接に国民利福の増進を図るに至は勿論なり」と記しました。

その後、大正、昭和、平成と時代は移り、初代大屋校長や霧島久圓氏の母校に寄せる思いは、「世紀を超えて」幾多の同窓生の胸中に宿り続けてまいりました。2012年、創立110周年という節目に数々の記念行事が盛会裏に開催され、我が母校「厚木高等学校」の伝統を、次の100年に向けて確かに引き継ぐことができたものと確信しております。

### 180名もの参加で盛り上がる

### 記念地引綱大会

創立110周年の記念行事の第一弾として、5月4日(金)、御所見戸陵会(平成25年3月「藤沢戸陵会」に改称)の主管により鶴沼海岸・堀川網にて「地引綱大会」が盛大に開催されました。当日は、前日の雨もあがり五月晴れの中、参加者が約180名と

例年の2倍近くの人数が参加し、相模原戸陵会や愛川戸陵会、睦合戸陵会のようにマイクロバスなどで大勢の同窓生が出席した支部もあり、太平洋の大海原に向かって声高らかに「校歌」を斉唱しました。

#### 参加者のコメント

支部主催事業であった頃の同窓林整備(下刈り作業が主)の帰り、小島菊代先生(中35回)宅の庭で慰労会を行った際、「愛川が山だから御所見は海だ！」(故)内野樹美

氏(高11回)の一声で地引綱漁のイベントが始まったのです。しらす、かますの大漁、天候があまり良くなく波打ち際近くまでテールを移動したことも、そして料理が砂被りの時もありました。創立110周年記念地引綱大会は波が大きく船を出せず地引綱は残念ながら出来ませんでした。毎年参加人数は増え、諸先輩、後輩にもお会いできた喜びと、江ノ島をバックに素晴らしいロケーションでお刺身、天ぷら等、お酒も十分頂き、我を忘れ楽しい時を過ごさせていただきました。御所見戸陵会の心温まる接待に深く感謝致します。

大貫 邦重(愛川戸陵会・高16回)

### 好天の名門コースにて開催

### 記念ゴルフコンペへ

平成24年6月4日(月)、絶好のゴルフ日和となった本厚木CCにおいて「創立110周年記念ゴルフコンペ」が160名の同窓生が参加して、盛大に開催されました。出場選手は、記念大会にふさわしく高4の大ベテランから、高53の若手まで幅広く、女性陣も数多く参加し、ラウンド後のパーティには第28代田中均校長も駆けつけられて記念大会に華を添えました。

#### 参加者のコメント

厚木高校創立110周年記念事業のゴルフコンペで幸運にも優勝できました。私にとっては160名という多くの方が参加した大会で優勝できたということはラッキーでしたし、光栄なことだと思っています。当日は天候や良き同伴競技者に恵まれて、あまり緊張せずにラウンドができたことが

### 歴史と思い出を一堂に

### 記念写真展

広報委員会並びにさくら戸陵会主管として「記念写真展」が5月15日(火)から21日(月)にかけてイオン厚木店7階の市民ギャラリーにて開催されました。



「懐かしい」の一語に尽きる写真展

この催しは、創立100周年を契機に整理された厚木高校の歴史の写真資料を中心に、その後のダンスドリル部の全米優勝や、かながわ校歌祭への参加など、この10

0年間の出来事に加え、1000点にしほり充実した展示内容で、のべ900人以上の来場者を喜ばせていました。

#### 参加者のコメント

今回の写真展は、和洋建築の木造旧校舎やバンカラ下駄履き姿等に、古き良き時代の厚高に思いを馳せ、校風や気質、伝統、歴史を

### 記念植樹にバーベキュー

### 思い出の杜に親しむ会

毎年恒例となっている「思い出の杜に親しむ会」も110周年記念事業として、平成24年11月17日(土)に、愛川戸陵会の主管により開催されました。

#### 参加者のコメント

記念撮影のあと、会場を中津川河畔に移して、賑やかに懇親会が催されました。

上位入賞者			
(順位)	(氏名)	(卒回)	(戸陵会)
優勝	碓井雅巳	高15	海老名
準優勝	齋田祐造	高10	南毛利
3位	小澤俊通	高24	睦合
4位	沼田春美	高15	南毛利
5位	服部 勉	高14	南毛利
6位	高橋 力	高18	南伊勢原
7位	井上 清	高18	睦合
8位	加川広志	高25	津久井

良い結果に繋がったと感じております。今後も厚木高校、戸陵会がますます発展されることを祈念いたします。

90周年事業で記念碑を建立し、同窓会長お手植えの枝垂れ桜や厚木を取り巻く各市町村の木を植樹した事を思い出す。100周年では枝垂れ桜の植樹や立て看板の制作を手伝いました。早110周年、生じた木々は木陰を作り、花や実を付け、小鳥や虫たちの飛び交う憩いの場となっている。これからも思い出の杜整備に尽力された同窓有志の御霊を引き継ぎ、これからも整備を続けて下さる愛川戸陵会の皆様本当に「ご苦労様です」。

大貫 睦男(広報委・高17回)

に、古き良き時代の厚高に思いを馳せ、校風や気質、伝統、歴史を振り返ることができた。創立100周年からの新たな伝統たらん歴史の1ページを加え飾ってくれたダンスドリル部の、喜びと誇りに満ち満ちた雄姿や、第4回校歌祭が厚木市文化会館で挙行され、その壇上での、今なお厚高応援団ここにありとばかりのOBの存在感と、統率されて校歌斉唱する熱き勇姿を今に伝え、変貌する厚高の歴史の流れが顕著に写し出され、わかり易い記念写真展となった。

菅野 敏子(広報委・高18回)





他校を圧倒する勢いの厚高の出演陣

11月25日(日)、神奈川芸術劇場で開催された第7回青春かながわ校歌祭に、現役生(1年)の3名が応援のリーディングに参加。それぞれに感想を聞いてみました。

### 第7回青春かながわ校歌祭

#### 参加者のコメント

「今回、現役学生として初めてリーディングをさせていただき、とても良い経験をすることができ人間的にも成長することができました。この経験を活かしていきたいと思っています。また、来年も後輩が参加して何かを得て欲しいと思います。」

馬場 純太郎

「自分がこの校歌祭に参加したとき感じたことは、OBの皆さんの厚木高校に対する熱い思いでした。舞台の前で、緊張したけれど、ここに来ていた人たちにこの思いを伝えたいという気持ちで、指揮をしました。今回、とても貴重な経験をさせていただきありがとうございます。」

浜田 匠



## 110周年のメイン行事 総会、記念コンサート、祝賀会

110周年記念のメイン行事として、第一部110周年記念総会、第二部110周年記念コンサート、第三部祝賀会が開催されました。



記念コンサートで歌う梶井氏とピアノの河邊さん

平成24年7月7日(土)、会場となったレンブラントホテル厚木には、総勢600名もの同窓生が集まり、久方ぶりの再会に、和気藹々のうちに式典等が進みました。

当日は、110周年の記念事業の1つとして新調した「大応援団旗」の披露があり、厚木高校の歴史に新たな1ページを刻むこととなりました。

#### 記念コンサート出演者

梶井龍太郎(高28) 声楽Ⅱ テノール、河邊亮子(高37) 演奏Ⅱ ピアノ、森口賢二(高44) 声楽Ⅱ バリトン、山脇涼(2年E組) 演奏Ⅱ バイオリン



リーディング初参加の現役生3名

秦 丈留

「厳粛な場でリーディングをするという事で、本番が始まるまでの緊張感やワクワク感は普段の生活ではなかなか感じられないのもだったので、素直に楽しかったです。新しい歴史の1ページになった嬉しさがあるとともに、今後僕たちの後に続いて欲しいと思います。」

#### 参加者のコメント

なんだかんだといつても、やっぱり応援団。新調された応援団旗も大きく立派。「昔操った杵柄」とばかりに、演舞を披露する先輩諸氏。祝賀会では大活躍でした。昔の厚高生には、懐かしい思い出ですね。

私も入学当初はイヤイヤやっていた応援練習。自分の部活動には関係ないし、なんで練習までして野球部の応援をするのか。答えはないままに強制的に繰り返されました。でも、そんなお陰で、校歌だけは今でもよく覚えています。年齢もあつてか、最近は毎年高3時代のクラス会を開催していますが、そんな時にもこの校歌が大活躍しています。

菅野 敬子(広報委・高18回)

## 記念募金活動と 学校施設の整備事業

### ① 図書館跡地周辺の整備

この整備事業は、昭和32年に創立55周年を記念して建設された「独立図書館」が55年目の年である平成23年12月にその役目を終え、取り壊されたことから、その後の跡地についての整備を学校から依頼された。同地には芝生が施され、東南の角地には「三剣」のモニュメントが中庭から移設され、まさに『戸室の丘辺、旭日さして』を体現する場所となりました。

また、正面周辺のフェンスも従来のネットフェンスから、剣先格子の重厚なフェンスに模様替えし、歴史ある伝統校に似つかわしい佇まいとなりました。

まいとなりました。

### ② 同窓会記念資料室の整備

昨年、さくら戸陵会の有志の尽力で、厚高校舎1号棟3階の一室に設置されていた同窓会記念資料室が、歴史と思い出を発信する拠点として一新され、希望に応じ常時入室鑑賞できるようにになりました。室内には、創立100周年の際寄贈の和洋建築の木造旧校舎の模型(高18回・菅野敬子製作)を始め、卒業アルバム、校旗等を展示し、壁面には、厚高をモチーフとした石井清氏のパステル画や、写真パネルを掲示しました。さらには、昨年、ご息から寄贈された茅誠司先生の日記や革のトランク等を特別展示しております。

## さくら戸陵会主管による 記念コンサート

### 平成25年2月3日(日)、相模原市緑区の「杜のホールはしもと」

には、石川範義同窓会長、田中均校長をはじめ、たくさんの同窓生がご家族や友人たちと、森口賢二氏(高44回)や渡邊史氏のソプラノの美声を堪能し、在校生のコーラスに応援の拍手を送りました。

会場の「杜のホール」の客席は満席。昨年から準備を進めてきた大井理恵子副会長(高18回)を中心にさくら戸陵会のメンバーがコンサートの運営を担当し、在校生や大澤教頭先生も加わって、在校生、学校、同窓生が一体となった110周年にふさわしいコンサートとなりました。

- ③ トレーニングルームの改装  
同窓会の支援により第2戸陵会館のトレーニングルームが改装されました。今までの設備は古く汚かったが、今回の改装により生徒たちは新しくきれいな設備でトレーニングに励むことができるようになりました。
- なお、引き続き母校支援のための募金活動を平成26年3月31日まで継続してまいります。
- 〈募金の払込方法〉  
1 金額/一口 5,000円(口数に制限はございません)  
2 振込先金融機関/  
① 横浜銀行 厚木支店 普通口座番号 6082219  
② みずほ銀行 厚木支店 普通口座番号 1430129  
3 口座名/厚木高校記念基金(アツギコウコウキネンキキン)



在校生のコーラスをバックに「カルメン」を歌う森口氏

「厚木高校の近況について」



文科省SSHに指定  
25年度から5年間

校長 田中 均

厚木高校は、平成25年度から5年間、平成29年度まで、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)に指定されました。本校の取組みは、ヴェリタスⅠ(1学年2単位)、ヴェリタスⅡ(2学年2単位)、ヴェリタスⅢ(3学年1単位)を柱とし、それぞれの科目の中で、生徒は「科学技術と自然環境」というテーマで探究活動を行い、その成果を年間4回発表し、質疑に答えるという学習を実施します。年度末には全員が英語で発表し、英語による質問に英語で答えます。

高度に情報化された国際社会で次世代を担うリーダーには、自ら課題を発見する力、それを迅速に解決する力、解決した課題を分かりやすく表現する力と質問に堂々と答える胆力が必要であり、こうした力を厚高生に付けたいと考えております。生徒全員に確かな学力を養うだけでなく、その学力を活用する力を育成する趣旨で、ヴェリタス(ラテン語 VERITASで、真理という意味)という科目を設定しました。

こうした探究活動を日常的に行う生徒のためにスーパーサイエンス研究室(SSR)を設け、活動を行っている生徒には各種の科学コンテストに出場させたいと考えています。昨年度は厚木高校SSR研(平成24年度から活動を始めます。)の生徒が東工大バイオコ

ンテストに出場し、高校生の中で優勝しました。さらに、夏休みにSSRセミナーを実施し、理科や数学の発展的学習や、実験実習を中心とした探究活動の機会を設けております。

このほか、「発展的な内容を含む教材の精選」、「スピーディーな授業展開」、「思考力、判断力、表現力を育成する生徒の活動」を3つの柱に職員が一丸となつて授業改善に取り組みしております。職員の授業に対するチーム力が向上した成果と考えますが、今年度の入試では現役、過年度卒を含めて国立大学に109名が合格するなど、進学実績が確実に向上しております。今後とも、文武両道、質実剛健の校風を継承しながら、生徒に教育の質を保証してまいりたいと思っております。

学校情報

本年4月の異動で川端麻穂副校長が綾瀬高校長に、大沢利郎教頭が中央農高副校長にそれぞれ栄転になりました。大沢先生には22年から3年間、同窓会の行事や会報の取材でお世話になりました。新副校長には厚木清南高より宮内克人先生、新教頭に港北高より木村則夫先生をお迎えしました。さらに、厚高出身の先生として希望ヶ丘高より壺井尚子先生(高37回)と、新採用の松田浩幸先生(高54回)がご着任されました。



歴史と伝統が  
支える「絆」

副校長 宮内 克人

神奈川県中央に位置し、11年という長きにわたり社会を牽引する人材を輩出し続けている高校、これが私の抱く厚木高校のイメージです。

この歴史と伝統を持つ厚木高校にこの度、厚木清南高校より副校長として着任することとなり、今その責任を痛感しております。教員としてこれまで培った経験を大いに活かし、これからも新たな世紀の牽引者となる人材を育成することに全力を尽くしたいと思っております。

「解説」スーパーサイエンスハイスクールとは、文部科学省が教育構造改革の一環として、科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度のことで、SSHと略記されている。2002年(平成14年)度に構造改革特別要求として約7億円の予算が配分され、開始された。平成25年度新規校として全国で43校が指定され、開発型27校、実践型16校となっている。既存指定校を含め、平成25年度現在のSSHの学校数は201校となっている。県内では、現在、県立神奈川総合産業高校(H21/25年度)、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校(H22/26年度)、県立西湘高校(H23/27年度)の3校が指定されている。母校、厚木高校は、平成25年度から新規の指定校で5年間の研究実践がされる。研究のタイプは開発型で、研究開発課題は「探求活動を核とした科学的リテラシーを育成する教育課程の研究」となっている。

三橋 敏司(広報委・高18回)

「質実剛健」「文武両道」を  
成長の糧に



教頭 木村 則夫

この4月の異動により港北高校より着任いたしました。応接室に入つたところ、右側のガラスケースにおびただしい数のトロフィー、盾が飾られ、創立110年を超えた歴史と輝かしい成果の重みを感じた次第です。その歴史の一部を教頭として担う大役をいただけたことを大変光栄に感じますとともに、その重責もひしひしと感じております。

応接室の左側には「質実剛健」と書かれた書が飾つてありました。心に強く残る書です。私は書道科の教員ですので、その言葉通り、飾り気のない、無理のない構成、そして質素でありながら強くたくましくお願いたします。

育成に努めていくとともに、自身も向上心を忘れず、生徒と共に成長していこうと考えています。若輩者でございますが、ご指導ご助言賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

茅賞 第45回茅賞に

辰野里納(りな)さん



文武の両面においても最も優秀な生徒に贈られる茅賞。今年度は、辰野里納さん(3A)が選ばれた。このことについて辰野さんに話を聞くと、「最初は、伝統のある茅賞に自分が選ばれたことにとても驚いた」という。「正直、私は人前に立つたりすることが得意ではなく積極的なタイプでもな

いので選ばれたことが不思議」と振り返る。「行事ではリーダーシップは取れなくとも、誰かをサポートすることを心がけ、部活ではESSに参加していた。勉強は一日の授業を大切にしていた」という。最後にこれからの抱負について聞くと、「この賞を取れたのは、周りの人達が暖かく見守ってくれたおかげ。だからその方々に感謝して自分もそんな人になりたい」と話してくれた。

(厚高新聞「第243号より」)





文化会館大ホールを会場に記念式典

# 大山の変わらぬ姿に 迎えられて



壺井 尚子 (高37回)

平成25年4月、希望ヶ丘高校より母校である厚木高校に着任いたしました。  
高校卒業後、大学では物理学を学び、会社員などを経て、平成20年4月に県立高校の教員として採用されました。将来を考え出した高校時代から、この仕事に落ち着くまでかなりの回り道をしました。が、まるですぐろくのふりだしに

戻ったように、母校に戻ってきたという感じがいたします。  
高校時代は、数学の授業中に気分が悪くなり、保健室に行く。「厚高生がそんなことでどうするの」と養護教諭に叱咤されました。こんな私が母校の教員となり、きつと当時の先生方はびっくりなさっていることと思います。  
在校生・保護者並びに同窓会員の皆様のご期待に応えられる様、精一杯頑張つて参りたいと思つております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# フレッシュさを忘れず全力で



松田 浩幸 (高54回)

新任教員として厚木高校に着任いたしました。思えば「先生になる」と決めたのは高校時代でした。高校卒業後は、健康福祉科学、体

育科教育学の学びという二度の大学卒業や民間企業勤務など紆余曲折ありましたが、母校から夢のスタートを切ることができ、大きな喜びを感じております。未熟な点は多々あるかと存じますが、皆様のご期待に応えられるよう日々努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 学校主催の記念式典 生徒らによる多彩な演出

## 参加者のコメント

110周年の記念行事には、立场上極力参加に努めたが、卒業生だけの行事、在校生も参加の行事といういろいろあり、工夫を感じた。

中でも9月27日(木)、市文化会館大ホールで行われた学校主催の記念式典は、卒業生のビデオレターがあり、感心した。

学校の伝統とは、卒業生の思いや感想を在校生に伝え、在校生も同じ校舎・校地で学んだ先輩たちの生きざまを感じ、心の絆で結ばれてこそ本物の同窓会だと思つう。応援歌にある「伝統古き三剣の...」を戸陵で学ぶ現役生たちに引き継いでほしいという気持ち強く感じられた。

高橋 将(相川戸陵会・高14回)

## 過去5年間の主要大学合格者数

[現役・既卒の合計数 ( )は既卒者] 平成25年4月8日現在

学校名	25年春	24年春	23年春	22年春	21年春
国立					
京都	2 (2)	1 (0)	( )	( )	3 (2)
千葉	4 (3)	8 (1)	3 (1)	2 (0)	5 (1)
筑波	6 (1)	5 (1)	3 (1)	6 (2)	2 (0)
電気通信	2 (1)	3 (0)	5 (4)	1 (0)	3 (1)
東京	2 (1)	3 (0)	3 (1)	3 (0)	2 (0)
東京外国語	4 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	1 (0)
東京工業	10 (1)	5 (3)	6 (0)	6 (0)	6 (0)
東京農工	2 (0)	1 (0)	6 (2)	3 (0)	7 (1)
東北	3 (1)	1 (0)	2 (2)	2 (1)	4 (0)
一橋	2 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (1)	1 (1)
横浜国立	20 (3)	17 (4)	21 (3)	19 (2)	14 (3)
国立計	80 (18)	72 (16)	71 (27)	64 (10)	61 (11)
公立					
首都大学東京	23 (5)	15 (2)	11 (3)	14 (2)	12 (4)
横浜市立	2 (0)	5 (0)	7 (1)	3 (0)	6 (2)
公立計	29 (6)	23 (2)	20 (4)	19 (2)	18 (6)
私立					
青山学院	72 (11)	63 (13)	53 (8)	52 (5)	48 (8)
神奈川	17 (3)	25 (14)	18 (8)	16 (1)	23 (2)
北里	20 (4)	16 (5)	19 (3)	15 (0)	18 (1)
慶応義塾	48 (11)	35 (6)	33 (4)	35 (4)	31 (7)
上智	55 (13)	24 (7)	32 (3)	14 (4)	15 (5)
専修	28 (8)	21 (8)	32 (12)	14 (1)	19 (6)
中央	78 (18)	62 (16)	79 (26)	67 (21)	68 (8)
東京理料	51 (9)	42 (11)	36 (4)	34 (7)	51 (7)
日本	32 (6)	27 (3)	23 (7)	14 (4)	18 (4)
日本女子	10 (1)	4 (1)	18 (2)	9 (0)	8 (1)
法政	56 (16)	46 (14)	36 (10)	38 (6)	34 (8)
明治	111 (24)	96 (23)	79 (21)	114 (21)	103 (28)
明治学院	43 (11)	43 (8)	30 (3)	24 (4)	8 (2)
立教	51 (7)	42 (11)	29 (6)	54 (7)	40 (9)
早稲田	101 (13)	94 (22)	79 (21)	111 (21)	63 (21)
私立計	1059 (210)	880 (220)	772 (207)	772 (128)	725 (147)

## 最近5年間の進学状況

卒業生進路	25年 高65回	24年 高64回	23年 高63回	22年 高62回	21年 高61回
国公立大学	76	69	54	62	59
私立大学	191	175	180	180	159
短大/大学校	1	3	1	1	1
専修学校等	0	1	2	2	2
進学者数計	268	249	237	245	221
入学率	84%	78%	75%	77%	82%
卒業生総数	319	319	316	318	270

## 平成24年度 部活動の記録

### 吹奏楽部

- ・パーカッショングループがジャパンパーカッションアンサンブルコンテスト全国大会で4位。
- ・県吹奏楽コンクールで最高位の朝日賞と金賞受賞。
- ・9月の東関東吹奏楽コンクールで銀賞。
- ・11月の第18回日本管楽奏コンテスト全国大会で優秀賞と審査員特別賞受賞
- ・25年4月6日の「第11回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール」で初の最優秀グランプリ賞受賞。

### 女子バレーボール部

- ・5月の県高校女子バレーボール大会でベスト8位、6月の関東大会出場へ。

### ソフトテニス部

- ・5月の高校総体県予選個人で2名が3位入賞、8月のインターハイ出場へ。団体は8位。
- ・6月の県大会で個人ベスト16位、団体ベスト8位。

### 山岳部

- ・5月の関東高校登山県大会で9位、11月に4年連続の関東大会出場へ。

### 弓道部

- ・県民体育大会兼団体予選会で5位入賞。
- ・県高校総体兼全国高校総体県予選会で個人3位入賞。
- ・県大会兼全国選抜大会県予選で男子団体準優勝。
- ・県新人大会で6位。

### 卓球部

- ・4月の関東高校卓球男子団体県予選会でベスト16位。全国大会予選会出場へ。

### 軽音楽部

- ・「ZEAH」が8月のアリオ・ハイスクールバンドバトル・グランドチャンピオン大会で3位入賞。
- ・「白いんげん豆」が11月の高校軽音楽コンクールで奨励賞受賞。
- ・軽音楽コンテスト県大会で連盟会長賞(ベスト16位)

### 新聞部

- ・8月の全国高校総合文化祭富山大会に出場。
- ・「厚高新聞」が25年1月、第42回全国高校新聞コンクール(大東文化大学主催、文部科学省ほか後援)で奨励賞。

### 茶華道部

- ・9月の関東大会に初優勝、11月の全国大会出場へ。
- ・11月の「Ikenobo 花の甲子園全国大会」で優秀賞受賞。

### ダンスドリル部

- ・9月のスクールライブショーチャダンスバトルで4位。
- ・11月のJCDA(略称)6位。

### SS研

- ・12月に東工大の「バイオものづくりコンテスト2012」で優秀高校生チーム賞と実験賞受賞。

### 陸上競技部

- ・第54回県高校新人陸上競技大会でやり投げ3位、100m8位。
- ・第67回県選手権大会で4×400mR8位。

支部会便り

このコーナーでは、各支部会の活動状況や会員からのコラム、同窓OBの活躍ぶり等を紹介いたします。

新潟戸陵会

二度の地震と東日本大震災

富井 京子(高32回)

2011年3月11日、大多数の方と同様、日常の仕事の最中に東日本大震災に見舞われました。私が在住の新潟県長岡市は東北三県や北関東ほどの震度ではないものの、いつまでも収まらない揺れに、近年の震災を経験している皆の顔色が変わり、ニュース速報の津波映像に言葉をなくしていたの思い出されます。厚木高校卒業30年余、縁あって

長岡市在住20年になる間に中越・中越沖の2回の震災がありました。最近10年ほど環境水質食品等の検査機関に勤務しておりますので仕事関係はもとより、中越地震の際は子供が中学生・高校生と二人おり本当に気の休まる暇が無かったことを記憶しております。ようやく震災の影響も収まり日常の日々を過ごしていた2011年の東日本大震災。震災後2カ月

伊勢原戸陵会

厚高弁論部での思い出

青柳 貞徳(高10回)



厚木高校を卒業し、もう何年になるでしょうか。当時の事を一生懸命に思い出しながら、そしてなつかしさをひしひしと感じながらペンをとっています。私は、当時

大勢の前で話す事は苦手でした。そんな思いが強い時、新入生が講堂に全員集った時だと思いが、話をされた足立原先生(元厚木市長、ダッチャン先生)の話に非常な感銘と、分かりやすい言葉で自然にぐっと引き込ませてしまっ話しながら、ただただ驚き凄いなと感じてしまいました。足立原先生が、部活として新聞部と弁論部の担当をされている事がわかり、自分自

平塚戸陵会

活動は小粒ながら粛々と

幹事長 渡辺 兼行(高19回)

余りで放射性物質検査に携わるようになってからは現在に至るまで怒涛の日々が未だ続いております。「直ちに影響は無い」と言われても不安はつのるばかりの方々はいかにして少しでも安心していただけるか、答えの見えない模索をしつつ日々を過ごしている状況です。地震とは縁を切ることはできない日本、今後の対策(原発はとにかく厳重に!)について政府・自治体に頼みつつ、自らできることを見直さなければと思うこの頃です。新潟県同窓会の行事になかなか参加できなく心苦しく思っております。現在の厚木高校および同窓会の情報については、折にふれ新潟戸陵会より連絡いただいております。これからもまた機会がありましたら同窓会の活動に参加させていただきますので、よろしくお願いたします。

平成24年度平塚戸陵会総会を、平成24年6月10日の日曜日に平塚市宝町の東海菜館で開催いたしました。当日は、落合会長を始めとして会員22名と大沢利郎教頭並びに曾根秀敏副会長のお二人に来賓としてご参加いただきました。形どおりに前年度の事業報告と収支決算の報告を行った後、続いて平成24年度の事業計画と収支計画を提案して、全会一致で全議案を承認いただきました。続いて、本会の会則の変更を提案いたしました。本会の会則は、昭和44年1月に

厚木高等学校同窓会平塚支部会則として制定されており、平塚市の地域内に在住の会員に入会の資格を与えておりました。今回の変更の大きな改正点は3点ありましたが、まず1点目は名称を平塚戸陵会会則とすること。2点目は、平塚市近隣地域に在住で当該地域で戸陵会が未整備な地域の会員を総会の承認を得て本会の会員とすることができること。3点目は、会長、副会長以下の役員の種類と人数を明確化したこと、等です。続いて、さくら戸陵会の発足について八田育子理事から報告があ

身を上させると「弁論部に入ってみよう」と決心しました。当時の弁論部は非常に活発に活動しており、「一緒にやってみようかな」と戸惑いと心配もありましたが、先輩の皆さんの親切さと和気あたたかい活動の中で、なんとか頑張る事が出来たのは、青春時代の最高の一頁だと思えます。夏の合宿稽古。卒業された先輩の方々が次々と我々の指導に来られ感激した事。そして、弁論部は発表する事だけでなく文章の組み立て、原稿完成、情報入手方法、会議の進め方、世の中の動きや普段の生活の中での視野拡大、努力等々、あらゆる事を学びました。見渡すかぎりの畑の中の小高い

「きつね塚」で思い切り大きな声での発声練習。この高校時代の経験が、私の社会人としての生活にどんなにプラスになったか計り知れないものがあります。学校への登校は、伊勢原から厚木の小野まわりで、自転車通学でした。道路は砂利道でひとつもふたつも山を越えてゆく中で、雨の日、風の日等は大変な苦勞をいたしました。しかし、今思えば、この時の自転車通学が若い体力を作り、今も元氣である源となったと思っております。通学途中は、厚木東高の女子生徒も自転車通学をしており、中には毎朝東高生の時間に合

い1コマでもあったのでは。会社退社後は、生まれ育った伊勢原への感謝第一にと地域の活性化に汗を流し、積極的に協力しようという心を決め、ボランティア、地元農協の理事や社協、自治会、学校等々多くの役員をやり、特に伊勢原市全体の自治会連合会の会長等を経験させていただきました。この異業種の皆さんとの人脈は今私の大きな宝物です。これも母校厚木高校時代の戸陵健児の精神が大きな力となっていると同時に伊勢原戸陵会での世代を越えた交流も忘れる事なく今でも大事な人脈を大切にし、絆を深め前進したいと思っております。

女性の社会進出が当然のこととなり、我がが高校時代に数人づつの女子が、クラスにいた時代に比べて今は隔世の感があるようですが、同窓会に女子会が生まれたことは、喜ばしいことで今後の各戸陵会の活動の活性化に繋がることと期待が膨らみました。硬い議事後、懇親会に移りましたが、平塚戸陵会恒例の全参加者の自己紹介が始まりました。今年のトピックスは毎年参加される今坂清先輩(中35回)から「松の声」(神長瞭月作詞)の替え歌「ああ夢の世や夢の夜や 今とは思いつくしき父母も」を披露して頂きました。一同、不思議な感覚に浸りながら、最後に落合会長の応援団振付により全員で校歌を斉唱して再会を誓いながら閉会となりました。



大沢教頭、曾根副会長を迎えての平塚戸陵会総会



藤沢戸陵会

「御所見」から「藤沢」へ

会長 井出 照雄(高11回)

御所見戸陵会は設立15年の記念事業として、拡大戸陵会の設立を目指して...

された方の娘さんからの丁寧な返事など反応はありました。関心を持たれた方々はこの藤沢を終の棲家として生活されており、藤沢に戸陵会があれば、他地区の戸陵会と同様に活動をしたと感じているのです。

現状の御所見戸陵会では人員も限られ、先細りが目に見えています。多くの同窓有志との親睦交流を図り、併せて母校発展のために寄与していこうと心新たに致しました。母校を懐かしく思い出し、藤沢に戸陵会ができる事を嬉しく感じたいという方、時かなわず永眠

藤沢市内には御所見をはじめ、遠藤・片瀬・鶴沼・長後・辻堂・睦合・善行・明治・大庭・湘南台の市民センター地区及び藤沢村岡公民館地区の13地区があります。本来ならばワークショップを開催し、新設に相応しい対応をすべき所ではありますが、本役員会に

相模原戸陵会

役員交流会を開催

会長 館盛 勝弘(高14回)



意見交換と親睦を兼ねた役員交流会

本年1月19日、新年会を兼ねて役員交流会を開催しました。当戸陵会の役員は、39名で構成されています。これは、平成23年度年度の総会において役員改選を行い、幹事を主に高15回卒以降の若い人になつていただきました。これまで会運営にご尽力いただいた先輩方には、相談役、顧問になつていただき会の運営についてご意見をいただくことにいたしました。しかし、年1回の定期総会だけでは、十分な意見交換ができませんので、役員との親睦と質問交換を

兼ねて開催したものです。今年の交流会は、各人いろいろな事情もあり、27名と若干少ない出席者でしたが、名譽会長の篠崎源太郎氏(中31回)はじめ顧問の先輩方にもご参加いただき、中学時代の厚木高校の話や当時の先生の話、クラブ活動の話など楽しいひと時をすごしました。金子事務局長から会の今後の事業計画と事業への参加依頼や定期総会を、従来の秋から今年度は6月に開催することなど報告があり意見を交わしました。また、大井副会長からは、さくら戸陵会主催の厚高110周年記念コンサートが、2月3日に開催されること報告されました。終わりに全員で校歌を合唱し交流会を閉じました。

てこの件を進めました。3月3日(日)の総会には新役員を盛大に歓迎し、藤沢戸陵会が益々発展するよう祈念しました。



市内全域の同窓生を対象とする新生藤沢戸陵会

海老名戸陵会

安政4年創業の泉橋酒造

橋場友一社長(高39回)に聞く

安政4年(1857年)創業の日本酒メーカー泉橋酒造(株)...

「酒造りは米作りからの信念のもと全国でも数少ない栽培醸造蔵(米作りから醸造まで責任を持って行う)として取り組んでいます。太陽と大地の恵みをいっぱい受けて育った信頼できる米を丁寧に仕込んでいます。」

「当社では、地元の酒米生産者JA農業技術センターのお力を借りて『相模酒米研究会』という酒米栽培の研究会を組織しています。海老名市座間市を中心に約30ヘクタール、

「地域に密着した」「環境に優しい」など、いろいろな点に配慮して会社経営がなされている若き橋場社長は笑顔がさわやかで人柄が表れています。また、娘さんが現役の厚高生とのこと、さらに「えにし」を感じました。

白壁の土蔵がある酒蔵の風景も一見の価値があります。「海老名に来られた折は是非お立ち寄りください。」と橋場社長は言う。



泉橋酒造 泉橋酒造



創業150年以上の歴史のある泉橋酒造と6代目橋場友一社長(高39回)

座間戸陵会

歌姫招き、心和むコンサートも  
第25回総会を開催

幹事長 山本 まさる(高11回)



総会では座間出身のソプラノ歌手、稲垣貴子さんのコンサートを開催

「座間戸陵会」(瀬戸宏孝会長・高4回)では、定期総会を去る24年6月24日に定例会場の座間神社「すいめい」で開催しました。今年で発足25年目を迎える当会では、毎年同窓会を兼ねた総会を行っており、予算等を審議するとともに現職の厚高の校長先生をお招きし、厚高の活動状況等を拝聴してあります。また総会終了後、各界一線で活躍されておられる方をお招きし、講演等を開催し、研鑽を深めています。

「座間戸陵会」(瀬戸宏孝会長・高4回)では、定期総会を去る24年6月24日に定例会場の座間神社「すいめい」で開催しました。今年で発足25年目を迎える当会では、毎年同窓会を兼ねた総会を行っており、予算等を審議するとともに現職の厚高の校長先生をお招きし、厚高の活動状況等を拝聴してあります。また総会終了後、各界一線で活躍されておられる方をお招きし、講演等を開催し、研鑽を深めています。

「思い出の杜」の由来は第46号会報で、八木一郎同窓会副会長が詳述されているので皆さんよくご存じのことと思います。長い間、鎌を振るった下刈り作業は専門業者をお願いし、杜を見学後、懇親会で親睦を深める「思い出の杜に親しむ会」が誕生したのは、平成21年11月22日である。長きにわたり先輩方が杜を愛し植樹された多くの木々に敬意を払い、110周年を契機に「思い出の杜樹木戸籍」を作る事になった。樹木判定は勿論、樹のことは何でも分かる愛川戸陵会の山口勇一君(高17回)の出番である。



「思い出の杜に親しむ会」の開催を前に、杜を整備

「小屋」と呼ぶ八木貞文(高18回)さん所有の庵、愛川にあり。山から下りた剛者共は慣れた手付きで囲炉裏に火を熾し、鍋をかけ、肉を焼き、17日の記念事業が成功裡に終わる事を祈って何度も乾杯。当日、小雨まじりの中、81名の方々のご参加を頂き厚くお礼申し上げます。

きましては、昨年「長竹CC」で第5回のコンペを開催。30数名が参加し、年々参加者も多くなっております。

愛川戸陵会

「思い出の杜」始末記

会長 梅澤 文明(高11回)

7月1日夕、秋田県大館市花岡町にある古刹、信正寺の前を流れる花岡川の畔で、紙コップで作られた419個の灯明の中の蠟燭が点される。やがて2つの流れに挟まれて中州のようになった岸辺に夜のどぼりがおりる頃、灯明の淡い光に誘われるようにホテルが1つ、また1つとせせらぎの上に舞い始める。



毎年7月1日に「花岡事件」の慰霊供養を行っている

「華人劳工」は国内135事業所に約4万人が連行されました。鹿島組花岡出張所はその一つ。食料不足やリンチなどに耐えかねて、「華人劳工」が日本敗戦前の1945年7月1日に暴動を起こした「花岡事件」を約40年にわたり調査記録してきたジャーナリスト石飛仁氏とともに毎年7月1日、信正寺本堂で慰霊供養の集いと川畔での灯明供養を97年から行っています。花岡川は中国人たちがその改修工事で働いた現場です。石飛氏は戦後日本に在留していた中国人の要請を受け、鹿島に対して未払い賃金を求める交渉をすすめてきましたが、その後別グループが始めた賠償要求裁判で和解が成立しました。しかし、石飛氏が長年追跡して入手した「秋田裁判記録」(石飛監修・金子編で彩流社より10年8月刊行)により7月1日と確定できた事件発生日が、言い伝えの6月30日のままであることなど、真の事実はいまにされたままなのです。福島原発事故と同じく、「大東亜戦争」に関する責任についても、事実の究明をきっちりやらなければ、教訓や反省にならないばかりか、やっていけないことまでやってきたとされたいま、未来に向けた真の責任の取り方が必要なのです。今年も私たちは7月1日、花岡で慰霊供養の集いを開きます。

厚木戸陵会

秋田県花岡で「慰霊供養の集い」

フリーライター 金子 博文(高19回)

のです。





小鮎戸陵会

百歳の洋画家、藤江理三郎画伯  
天国に旅立つ!!



昨年4月、100歳を迎えた時の藤江画伯

昨年、100歳の洋画家(厚木市下古沢在住)として話題になった藤江理三郎画伯が、去る12月18日、100歳9カ月の天寿を全うされました。

この日、実娘の容子さん(高14回)と藍さん(高15回)が、椅子に座った画伯のそれぞれの手の爪を手入れしている最中に、画伯は気持ちよさそうに寝入り、安らかに幸せそうな寝顔のまま永遠の眠りにつきました。

前日まで、意欲的に創作活動に励み、柚子のデッサンをして、「この柚子の色がおかしいので、明日新しい柚子に取り替えなくてはいいけない。」と創作への気力は十分にみなぎっていたそうです。「まだまだ、たくさんの絵を描いてほしいかった。」と藍さんは話していました。

東京美術学校(現東京芸術大)に入学し、南薫造教授に油絵を学び、首席で卒業しました。洋画家として生涯現役を通し、国内外で活躍、日展特選など入選が多数ありました。絵画の発展と普及に努めた功績から平成6年に厚木市民文化賞を受賞しています。100歳を過ぎても、気に入ったモチーフが見つかる、食事をするのも忘れ、自宅のアトリエで集中して描いてしまい、視力は衰えず、眼鏡をかけずにキャンパスに向かっています。

春は、自宅の庭に咲くアザミやホタルブクロなど野の花。初夏には、枇杷や桃。秋は、厚木産の柿や栗などを描きました。「春よりも秋の季節が、実りの果実が豊富なので、題材としては見つけやすい。」と話していました。

昨年、100歳の記念すべき年として、10月16日から1週間、厚木市民ギャラリーにおいて個展を開き、市民ギャラリー始まって以来の大勢の人々が訪れました。この個展は、数ある作品の中から、画伯が気に入った静物画や人物画を選び、厚木市では初めての個展となり大盛況のうちに幕を閉じました。

現在、画伯の家には、たくさん の絵画が残されておりですが、「厚木市にこれらの絵画を展示するギャラリーが造られれば、市民のみならず楽しんでいただくため、寄贈したい。」と藍さんは笑顔で語っていました。

頼住 道夫(広報委・高22回)

南毛利戸陵会

大学生生活を振り返って

道関 佑佳(高60回)



実験装置の前でザックさんと



憶い出の柱に花木を植樹



植樹後の報告会・慰労会

私は厚木高校卒業後、平成21年4月に青山学院大学院工学部電気電子工学科に入学し、4年間を淵野辺キャンパスで過ごしました。電気電子工学科を選んだ理由は技術者である父の影響と理系の教科が好きだったからです。私の大学では4年生になると研究室に配属され1年間研究を行います。私が選んだ中田研究室では太陽光発電を目的とした太陽電池のなかで、低コストかつ環境への負荷が少なく、約20%の高効率のCIGS(銅、インジウム、ガリウム、セレン)太陽電池のさらなる高効率化を目的として、この太陽電池を実際に作って効率を上げていく研究を行っています。私が研究室

に配属された当初は装置の使い方など何もわからない状態でしたが、先生方のご指導のおかげで少しずつ覚えていきました。中田研では研究のテーマごとに班分けしており、私達の班の目的はタンデム型と言って、通常の可視光を使った太陽電池を透過してしまふ赤色部分でも発電する二層型電池の二層目の部分(ボトムセル)の高効率化です。私はCIT(銅、インジウム、テルル)で1.85%の効率を一年間の成果として得ることができました。これは少ないように思えますが、今までは捨てていた太陽光の波長を使って発電するので、一層型太陽電池の電力効率に直接加算される事を意味していま

玉川・森の里戸陵会は小さな支部ではありますが同窓生の繋がり、母校への想いは強く、昨年の10月6日に創立110周年記念として、「憶い出の柱」に記念植樹を行いました。これは、伝統ある母校のますますの発展と今後も同窓会がより強い絆で結ばれていくことを願い、さらに「憶い出の柱」の存在を知ってもらうために行ったものです。

110周年記念植樹を終えて

玉川・森の里戸陵会

玉川・森の里戸陵会は小さな支部ではありますが同窓生の繋がり、母校への想いは強く、昨年の10月6日に創立110周年記念として、「憶い出の柱」に記念植樹を行いました。これは、伝統ある母校のますますの発展と今後も同窓会がより強い絆で結ばれていくことを願い、さらに「憶い出の柱」の存在を知ってもらうために行ったものです。

人いて、意義有る植樹となりました。植樹の後は、都合で山に行けなかった会員も含めて記念植樹の報告会・慰労会として地元酒に舌鼓し楽しい一時を過ごすことができました。やはり同窓会というものはいいものです。先輩後輩が同じ場所時間を共有することでさまざまな情報交換ができ、充実した社会勉強を深めることができました。今後も、こうした支部活動の内容を工夫して同窓生が顔を合わせられる機会を設けていきたいと考えております。

三橋 敬司(広報委・高18回)



相川戸陵会

「総会だヨ、全員集合!!」

会長 高橋 将 (高14回)



老若男女が集った相川戸陵会総会

平成も4半世紀、25年2月、相川戸陵会のメンバーが厚木の町に集結、総会とにぎやかな懇親会が持たれた。相川地区は厚木に隣接しているが、昔は純農業地帯、相模の穀倉とも言われて水田が南の平塚まで延々と続いて地区内には坂が皆無の平坦な地域である。東名高速の開通により北部に倉庫群が出現、南部も第二東名の建設で大きな変化が予想されるが、伝統的に農業中心の産業構造で戸陵会員も他と比較すると少人数だが、それ故地域での人間関係も密で、和気あいあいの会合となった。懇親会では参加者中最高齢の鈴木久昭氏(中41)の乾杯の後ににぎやかな懇談、会話は自然と戸陵時代の出来事が中心となった。戦争、敗戦、学制改革の嵐の時代の勤労働員やビンタあふれる学校生活、木造校舎から鉄筋校舎への時代は、旧東高校での間借り生活、

1番盛り上がったのは応援団練習に備えた早弁当、二校時、三校時の休み時間は当たり前、猛者は授

同期会便り

高17回 4年ぶりの再会、盛大に

足立 一彦 (高17回)

次代を担う精鋭が揃う我が高17回の同期会は、母校が110周年の節目の年を迎えた昨年の5月26日にレンブラントホテル厚木で4年ぶり(五輪年)に開催しました。最近の2回は2月開催でしたが、110周年記念事業が多彩に行われるその年度内で実施したい、また、我々の年になると2月では寒いという意見もあり、5月開催になったものです。当日は、恩師を含む78人が参加しましたが、これまでは必ず100人以上が参加していたため、少し寂しい感じがしました。それでも遠くは仙台(2人)や名古屋から駆けつけてくれましたが、今回は厚木市内を含む県内在住者が94%にも上りましたので、なるべく遠くからも来てもらえたいと良いのですが、こればかりは仕方ないのかな?それでも、当日配布の資料の中に出席者からのメッセージ(67人分の近況等)を載せるなどの工夫も凝らしました。



他県からの参加もあった高17回の同期会

そして、会を始める前に、全員で記念写真をパチリ!会では、私が司会進行し、伊藤修治さんの発起人代表あいさつ、出席していただいた3人の恩師の先生からお一人ずつお言葉をいただいた後、都高泉さんの乾杯の音頭で歓談に入りました。宴席の中では、「高校時代の懐かしい思い出」や「子や孫

業中に済ませることやパンやそば販売等へのダッシュには如何に怖い上級生を出し抜くかなど数10年前にタイムスリップして若き溢れる時間を共有し、現在の日常生活の精神面に活力を充填する機会になった。地域・生活が大きく変化する中同窓諸氏の健勝と変わらぬ連帯、母校の発展を祈念して散会した。

のこと、果ては、「介護やデイケア体験などの話」も飛び出すなど、和気あいあいに楽しい雰囲気の中で、会は進みました。懇親会の最後の締めは、やはり校歌斉唱。今回は、たまたま元応援団の人たちが欠席だったため、CDに合わせて、全員肩を組んで「相州健児あわが友」を声高らかに熱唱。青春に戻った気分でした。閉会の言葉は、平本幸一さんにお願いで無事終了し、次回は4

高24回 記念行事への参加呼びかけ

日時 平成24年3月25日(日)
会場 レンブラントホテル厚木
参加者 恩師4名、同期生88名
前回は比べて40名減になりました
たが、盛会のうちに終わることができました。
園田の挨拶、乾杯から始まり、小泉忠久先生、小林正義先生、石

六厚会 同期の薬剤師稲垣氏が講演

私たち高校第6回卒業生は、六厚会と称して総会は1年おきに実施し、今回は18回目のついでであった。この他に30名ほどの有志で年4回ゴルフコンペを行っているが、65歳から始めて早くも40回記念大会を迎えることとなっている。今回の総会は、24年6月1日、本厚木駅南口の上海菜館で開催された。48名が参加した。恒例の講演は、同級生で現役薬剤師の稲垣嘉則君が「健康の自己管理について」

年後に再会を誓い合って散会となりました。その時は、70歳(古希)を迎え、体がコキコキと痛くなる世代ですが、皆さん!その時まで元気、また多くの方に出席いただくことを期待しています。

井初男先生、濃田秀夫先生のお話を頂き、しばし歓談。110周年事業、さら戸陵会の紹介、御所見戸陵会の地引網への誘いがありました。ゲーム大会のち、校歌斉唱を応援団の小澤俊通君の指揮で終わりました。

と題して話をした。後期高齢者の私たちにとって身近な関心事であるため、皆真剣に耳を傾け、宴会の中でも質問が相次いだようであった。応援団OBの深見君の指揮で校歌斉唱、厚木高校創立110周年の寄付金・記念行事にも積極的に協力しようとして申し合わせ、3時間のついでを閉じた。

高27回 中川、宮崎両先生がご出席

代表幹事 平野亮二
日時 平成24年6月23日(土)
会場 レンブラントホテル厚木
参加者 64名
4年前に開催し、今後はオリンピックキヤーに開催することになり、昨年ロンドンオリンピックの年に開催しました。
当時の担任である中川先生、宮崎先生にご臨席賜り、本場になつかしく、楽しい会となりました。午後8時からは2次会を駅前で行いましたが、9割近い同期生が参加し大変有意義なひと時を過ごすことができました。年齢的にも大病を患った人、転職した人、孫が数人いる人など、それぞれ人生の大きな山坂を越え

たなどといった印象でした。今回はD組、F組、H組、I組の同期生も参加し、次回2016年リオデジャネイロの時には、さらに人数は拡大するものと思われまます。次回、我々第27回同期生は還暦の年齢となります。我々同期生はオリンピックキヤーの生まれが多いので、是非、再び東京でオリンピックが開催されることを願っています。

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成25年5月1日現在)

同窓会本部役員

- 会長 石川 範義 (高10)
副会長 難波 浩 (高11)
副会長 杉田 泰繁 (高14)
副会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 八木 一郎 (高14)
副会長 泊瀬川 孚 (高14)
副会長 杉崎 秀夫 (高17)
副会長 小島 富司 (高18)
副会長 大井 理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
監事 金子 輝司 (高15)
監事 松永 光弘 (高24)

同窓会本部事務局

- 事務局長 伊藤 修治 (高17)
事務局次長 石塚 修 (高28)
会計 足立原 泰 (高12)
会計 足立 一彦 (高17)

理事

- 1 八木 伸一 (中40)
2 高橋 武彦 (高8)
3 遠藤 伸安 (高10)
4 梅澤 文明 (高11)
5 町山 良行 (高11)
6 井出 照雄 (高11)
7 城所 文洋 (高11)
8 高橋 増次 (高11)
9 花上 肇 (高11)
10 高橋 力 (高18)
11 落合 重治 (高13)
12 館盛 勝弘 (高14)
13 大矢 正次 (高14)
14 石射 隆宏 (高14)
15 下川 信好 (高14)
16 高橋 将 (高14)
17 鶴指 眞澄 (高15)
18 志村 昂二 (高15)
19 新倉 正治 (高15)
20 石川 武久 (高16)
21 森久保 純生 (高16)
22 都高 泉 (高17)
23 小林 義廣 (高18)
24 星 博美 (高18)
25 花田 亥み子 (高20)
26 阿部 洋 (高22)
27 真崎 和秋 (高22)
28 八田 育子 (高24)
29 剣持 典子 (高26)
30 大塚 朋子 (高26)
31 齋藤 昌代 (高26)
32 今井 雅裕 (高26)
33 高橋 昌和 (高27)
34 山本 智子 (高28)
35 関野 俊之 (高28)
36 伊藤 学 (高30)
37 葉山 真弓 (高30)
38 土屋 由子 (高32)
39 長田 靖子 (高33)

各地区同窓会支部

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会長 八木 伸一 (中40)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
会長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
事務局 春木 健作
6. 相模原戸陵会
会長 館盛 勝弘 (高14)
事務局長 金子 輝司 (高15)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
幹事長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 梅澤 文明 (高11)
幹事長 大貫 邦重 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長代行 新倉 正治 (高15)
事務局長 笠間 城治郎 (高14)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
事務局長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 高橋 武彦 (高8)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 藤沢戸陵会 (旧御所見)
会長 井出 照雄 (高11)
事務局長 大貫 睦男 (高17)
15. 厚木連合戸陵会
会長 石射 隆宏 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局長 平野 亮二 (高27)
① 厚木戸陵会
会長 遠藤 伸安 (高10)
事務局長 池田 清 (高19)
② 依知戸陵会
会長 都高 泉 (高17)
事務局長 大塚 憲二 (高18)
③ 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局長 山岡 清 (高21)
④ 狹野戸陵会
会長 花上 肇 (高11)
事務局長 伏見 清 (高18)
⑤ 小鮎戸陵会
会長 志村 昂二 (高15)
事務局長 森久保 純生 (高16)
⑥ 南毛利戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局長 小淵 正志 (高18)
⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
⑧ 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高16)
事務局長 山口 正春 (高17)
16. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
17. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齊藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会長 齊藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)



http://www.atsukou-dousou.org/

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。主な内容は次の通りです。

同窓会ホームページのご案内

- 同窓会概要
本部役員紹介/会則/母校教育振興基金規定/活動活性化補助金交付要綱など
学校の歴史・校歌
沿革の概要/県立第三中学校創立略史/同窓会の歴史など
「お知らせ」
同期会/同窓会会報/バックナンバーなど
「支部会のご案内」
各支部の活動報告など
「110周年記念」
創立110周年記念事業報告として、1年間の各種行事を紹介。動画や写真など、多彩な内容で同窓生の皆様に時々の情報をお伝えしていきます。ぜひご覧ください。

事務局便り

事務局スタッフ9名に
学校情報らんで紹介した通り、今年度は重井尚子(高37回)、松田浩幸(高54回)の両先生を新たに迎え、9名の校内役員で同窓会の活動に協力してまいります。
事務局次長/須藤福治(高28)
事務局総務/吉垣 武(高39)
同窓会名簿/吉垣 武、須藤福治
内野英明(高30)
木村和彦(高32)
松田浩幸(高54)

編集後記

今号は前号に引き続いた「創立110周年記念事業」特集を中心に企画編集した。昨年5月4日の地引網大会を皮切りに、本年2月3日の記念コンサートまでの記念行事・事業の総括である。
●各行事に参加した方々に依頼した原稿の多くが予定字数を大幅に上回っており、写真を含め泣く泣く割愛させてもらった次第で、何とぞご容赦願いたい。
●それは取りも直さずこれらのイベントに参加した誰もが「感動と熱き思い」を味わったことの証に外ならないわけで、110年の重みと培われた絆の大きさを再認識することとなった。
●桜満開の戸室ヶ丘のキャンパスに新入生たちの歓声が響く。新たな絆の芽生えである。

平成23~25年度 広報委員会委員 (平成25年4月1日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists committee members and their contact information.